



まがたま

一人一人が輝く学校・地域と共に歩む学校

令和7年 2月28日
豊玉中学校だより No. 21

【E-mail】 shimura.osamu@nerima-ky.ed.jp
【URL】 <https://www.nerima-ky.ed.jp/toyotamaj/>

年が明けて早いもので、もう2ヶ月が過ぎようとしています。令和7年の年明けは比較的暖かく、穏やかな日々が続いていました。しかし、2月に入ると歴史的な大寒波が襲来しました。東北地方や北陸地方では災害級の大雪に見舞われ、多くの方々のご苦労されているとニュースなどで報道されています。一方、東京ではまとまった雨が降らない乾燥した状態が続いております。そのため、火事には十分に注意し、引き続き寒さ対策をしっかりと行い、健康にご留意ください。

さて、学校では2年生のスキー移動教室や3年生の都立高等学校の入試、新入生入学説明会、研究会発表会も滞りなく終了し、年度末に向けての準備が進んでおります。今後は、作品展や卒業式、修了式が控えており、生徒たちのこれまでの努力や成長を皆様に披露する大切な機会となります。作品展にぜひご来校いただき、日ごろの生徒の頑張りを直接ご覧いただければ幸いです。また、卒業式や修了式は、生徒の成長を感じられる特別な時間にしたいと考えております。あと一ヶ月となりましたが、最後までよろしくお願いいたします。

令和7年2月10日全校朝礼より

今回は「真・善・美」という3つの言葉についてお話します。この言葉はギリシャ哲学を起源とする概念で、哲学や美学の根本となるものとされています。

まず、「真」についてです。これは真実や真理を意味します。私たちは日常生活の中で真実を追求することが必要です。インターネットの普及により、学習の際に言葉の意味を簡単に調べたり、情報を容易に集めたりすることができるようになりました。しかし、ICT技術は便利であると同時に注意も必要です。情報過多な現代社会ではデマやフェイクニュースに惑わされないよう、真偽を見極める力、すなわちネットリテラシーを養うことが不可欠です。また、SNSなどで情報を共有する際には、その情報が偏っていないか、多角的な視点から検証したり、正確であるかを確認したりする習慣を身に付け、情報リテラシーを向上させることが重要です。情報を鵜呑みにせず、自分で考え、探究する姿勢をもちましょう。物事の本質を見抜く力、それこそが「真」を求める心です。

次に「善」についてです。「善」とは道徳的に正しいこと、倫理的な意味で良いことを意味します。困っている人に手を差し伸べることは小さな「善」の行為です。また、いじめや無視、差別をしないことは、人として当たり前の「善」の行いです。しかし、現代社会においては、「善」の判断が難しい場合もあります。その一つが「闇バイト」の問題です。簡単な仕事で高額な給料をもらえるという魅力的な言葉に惑わされ、安易に仕事を引き受け、犯罪に手を染めてしまう若者が増えています。「闇バイト」の誘惑に打ち勝つためには、「善」の心をもつことが大切です。「本当に正しいことか?」「人に迷惑をかけないか?」と自問自答し、道徳的・倫理的な観点から判断することが求められます。また、自問自答だけでなく、周りの人に相談することも大切です。信頼できる人に相談し、客観的な意見を聞くことで、冷静な判断が下せることもあるでしょう。自分の利益だけを考えるのではなく、周りの人々のことも考え、正しい行動をとることが大切です。人を思いやる心、それが「善」を求める心です。

最後に、「美」についてです。「美」は芸術や自然、調和のとれた状態など、私たちが美しいと感じるものを意味します。例えば校庭や校庭の花壇を見てみましょう。主事さんが丁寧に植え、大切に手入れしている色とりどりの花が季節を問わず咲いています。春には桜の花や「まがたまプロジェクト」で植えたチューリップが咲き誇り、春の訪れを感じさせてくれます。美しいものに触れることで心は豊かになり、感受性が高まります。美術の授業で絵を描く際には、上手さだけでなく、一人一人が感じた美しさを表現することで、他の人と感動を共有することができます。また、昨年11月に行われた合唱コンクールでは、協力して美しいハーモニーを作り出し、皆で一体感を感じることができました。日ごろの言葉遣いにも注意が必要です。「批判」や「悪口」、「嘘」といった醜い言葉を使うと心まで汚れていきます。正しく美しい言葉を使うことで心も美しく保ちましょう。美しさを感じることで、ストレスを減らし、心をリフレッシュすることができます。また、美しさを目指すことで、創造性も高まります。美しいと感じる心、それが「美」を求める心です。

「真・善・美」はそれぞれが独立したものではなく、互いに関連し合っています。真実を追求することで正しい判断ができ、善の行動につながります。美しいものを追求する中で真実が見えてくることもあります。皆さんも日々の生活の中で「真・善・美」を大切に、実践していきましょう。真実を追求し、善の心を持ち、美しさを感じることで、より豊かな人生を送ることができるでしょう。以上です。

～第2学年 スキー移動教室～

主任教諭 大滝 龍太

第2学年は、2月3日（日）から2月5日（火）の日程で、長野県上田市にある武石少年自然の家（ベルデ武石）・番所ヶ原スキー場を利用したスキー移動教室を実施しました。

今年の冬も雪不足の心配がありましたが、スキー場は真っ白な銀世界が広がっており、雪質も良好で、無事実施することができました。今年度は、出発日が日曜日となり、渋滞等の心配もありましたが、高速道路もスムーズに進み、予定どおりの到着となりました。生徒の皆さんは、レク係が事前に企画したバスレクなどを楽しんでいる様子で、車内を和やかな雰囲気にしてくれました。

初日のスキー実習は、1時間15分と短い時間でしたがスキーの基本をしっかりとインストラクターの方から学び、懸命に取り組む姿がありました。生徒たちからは、「もっと滑りたい。」「早く明日にならないかな」という声が多くあがりました。初めてのスキーをする生徒が多かったですが、心の底から楽しんでいる姿があり、私たち教員も嬉しい気持ちになりました。

2日目から本格的にスキーの実習が始まり、転んでしまう生徒やスキー板が外れてしまう生徒などがちらほらと出てきて、心がくじけそうになる生徒がいましたが、仲間同士で声をかけて支え合ったり、なぜ上手くいかないのかを自分で考えたり、仲間内で相談しあっている姿もありました。その姿がとても印象的でした。2日目の午後の実習が終わったときに、「もう終わりですか?」「明日で最後なのは、本当にさみしい。」という声が聞こえてきました。生徒たちが、真剣にスキーに向き合い、最後までやりきろうとする姿勢があるからだと感じました。そして、「一つできるようになると、また次のことにチャレンジする」といった姿勢につながっているところに皆さんの成長を感じました。成長したのはスキーの技術だけではなくありませんでした。上手くいかない仲間への声掛けや、困難を乗り越えた仲間への賛辞など、精神的な成長も見ることができました。

生徒たちは、1学年の宿泊行事で時間通りに動くことができず、今回の宿泊行事はしっかりと5分前行動を意識して取り組むたいという気持ちがあり、宿舎の様子を見ていると、食事や入浴、係会とうで事前に実行委員や室長が声をかけたり、お互いにしおりを確認し合って早め早めに行動することができました。その意識はこれからの学校生活でも存分に生かしていきましょう。これも、学校生活で計画委員会などを通し、自分たちでしっかりと話し合い、声を掛け合い、問題に向かって取り組む成果だと思います。しかし、就寝時間などしっかりとまもることができたでしょうか。普段の生活が出てしまったように感じる部分もありました。普段から規則正しい生活ができるよう意識できることを願っています。

3年生に向けての2学年としての最後の宿泊行事として、全体を通して成功だったと思います。スキーのスローガンの中に「もっとみなのことをスキになろう」という言葉がありましたが、学級の生徒とたくさんコミュニケーションをとれたと思います。もうすぐ2年生が終わり、3年生になります。これまで準備に携わってくださった皆様、2泊3日の生活を支えてくださった宿舎の皆様やインストラクターの皆様、実行委員会の生徒の皆、そして共に過ごした仲間へ感謝の気持ちを忘れず、今回の経験を今後の生活や次の宿泊行事等に生かしていくれたらと強く思っています。



卒業に向けて

「立つ鳥 跡を濁さず」 この諺は「立ち去る者は、あとが見苦しくないようにすべきである。」という例えでよく用いられます。今、この鳥を「巣立つ鳥」と考え、この鳥に注目してみましょう。この場面の鳥は、どのような思いをもち、どのような表情でこの場所をあとにするのでしょうか。そう考えたとき、この諺は「巣立つ鳥 ……」にはどんな言葉が入るのでしょうか。3年生の皆さん、卒業式までの宿題です。（副校長 志村 修）